



新しい医療は 笑顔から

メディセレの講師の資質の一つは、受験生の緊張を解きリラックスさせるコミュニケーション能力。2日後に試験を控えた受験生を集めて行われる直前の国家試験対策講座は真剣そのものだが、最後はリラックスして実力を100%発揮できるよう「笑い」で締める。このメディセレ恒例の「めでいやま」は大阪校と東京校をネットで中継し、行われた。

笑顔でリラックスし、
実力を100%発揮

真剣な講座の後は、笑いの渦と笑顔、笑顔、笑顔……。受験生に勇気を与えるメディセレ恒例の薬剤師国家試験直前対策&出陣式「めでいやま」のコマだ。

今年の薬剤師国家試験は3月3、4日の2日間にわたって行われた。この出陣式が開催されたのは1日。試験の2日前になる。メディセレは、2007年に設立された薬剤師国家試験対策予備校。設立以来高い合格率を誇るが、その秘密の一つがこの「めでいやま」だ。

2008年に法律が改正され、薬剤師も4年制から医師・歯科医と同じ6年制教育がスタート、患者とのコミュニケーション能力を高める「接遇」などのカリキュラムが新たに組みこまれた。薬剤師

国家試験の問題も今年から2日間で240問から345問に増加した。2日間の試験で人間が解ける限界は350問。薬剤師国家試験は人間の限界に挑むもつと



若いスタッフの多いメディセレ
児島恵美子社長のまわりには
常に笑顔があふれる。

も難しい試験の一つとなった。薬剤師の資格を持つ児島恵美子社長が自らの体験をもとに起こした予備校がメディセレだが、その難関突破の秘訣の一つが「笑顔」だった。

「限界に挑む試験ではだれもが極度に緊張します。そんな雰囲気の中で実力を100%発揮するためにはリラックスが大事。リラックスさせるのが笑顔の力です」と児島社長。「もちろん学力アップも重要。そのためにもメディセレは徹底して記憶に残る講義を行っています」と胸を張る。

今年の受験生は新制度の第一期生。例年のない緊張を強いられた受験生たちを前に、若い講師陣たちも、次々に「笑い」をとってその緊張を解さばくす。新しい医療を支える若い力は「笑顔」から生まれていた。